



花笠音頭の源流を辿って

詳しくは本誌p.40「私の文化研究:「花笠音頭」「花笠踊り」の発祥の地を訪ねて」をお読みください

中村和貴 (滋賀・大津市立瀬田東小学校)

かつて先人たちは山形県尾花沢市に徳良湖をつくって開田しようとした。過酷な重労働の合間に働き手によって歌い踊られ始まったのが、花笠音頭であり花笠踊りです。以下は、私(中村)の記録写真の一部です。



大勢の若い働き手が、周辺の地域から、集まりました。徳良湖のそばにある花笠音頭資料館にて。



源流の花笠音頭の歌詞はこちらです。作り手は働き手なので、労働のこと、そして徳良湖周辺のことを語られています。



女性たちが、息を合わせ引っ張り上げては落とし、底を固めていきます。(再現写真)



(左) 現地で使われている花笠 (右) 本校で使っている花笠
大きさだけでなく、内側にも違いがあり、笠回しのために指をかける雨傘のような骨もあります。



実際に使われた石で、22kgとあります。1人で持ち上げても、役に立ちません。みんなの力が必要です。



徳良湖のほりにある、石碑で記念に撮りました。子どもたちへの意欲付けに見せました。